

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
ブ18	『本朝廿四孝』初演番付	資料					①明和3年1月 ③文楽協会山城少塚文庫蔵
274	『本朝廿四孝』初演番付	資料					①明和3年1月 ③中西仁智雄氏蔵
	浄瑠璃発端	教本		宮戸太夫	浄瑠璃発端		①安政6年 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃（昭和50年10月・三一書房）に収録。風の曲節
	四、新声館発足	劇評			東京の人形浄瑠璃		①平成3年2月 ④日本芸術文化振興会 ③演芸資料選書・5。明治26年10月東京新声館所演。「都新聞」（明治26年10月24日）より転載
	義太夫借用帳 （三）狐火	参考	丁子舎		演芸世界	第1号	①明治34年3月 ④演芸世界社 ③「狐火」の唄
	丸本略筋 （其二）本朝廿四孝	梗概			演芸世界	第15～17号	①明治35年5・6・7月 ④演芸世界社
	附録 語方の実例 本朝廿四孝 十種香の段	演出	岡鬼太郎		義太夫秘訣		①明治36年3月 ④服部書店 ③明治39年6月富田文陽堂より第2版、大正10年9月野村青雲堂より第4版発行
					岡鬼太郎花柳文芸名作選		①昭和55年10月 ④鳳書院 ③明治36年3月服部書店版の復刻
			近世文芸研究叢 書刊行会＝編		近世文芸研究叢書 第二期芸 能篇25 浄瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃素人講 釈』を収録
43、カ 71、221、 ブ18、 274、514	紋十郎の八重垣姫	演出	三木竹二		（第一次）歌舞伎	第37号	①明治36年6月 ④歌舞伎発行所
	* 二十四孝 十種香の段 * 二十四孝 三段目 勤助住家 の段 * 二十四孝 桔梗ヶ原の段	注釈	蓼沼祐太郎・山 沢簡＝編		義太夫難句詳解	前編	①明治37年2月 ④田沼書店
	本朝廿四孝 * 十種香の段に就いて	解説	竹本其太夫	鶴沢名門二	浄曲/百段語り物の訳		①明治39年4月 ④其中堂書店
	文楽座盆替り	総解			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第79号	①明治42年9月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
327、627	文楽座盆替り	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第80号	①明治42年10月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治42年9月御霊文楽座所演
435	「十種香」に就て	芸談	大阪かの字	竹本摂津大掾	演芸画報	第3年 第11号	①明治42年10月 ④演芸画報社
	本朝二十四孝（勘助物語の場）	解説 梗概	劇道研究会＝編		古/今名劇二百種	第1集	①明治44年6月 ④金港堂書籍
627	文楽座九月興行	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第98号	①明治44年9月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治44年9月御霊文楽座所演
	近松座（大正元年9月20日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正1年9月近松座所演（短評）。「毎日新聞」より転載
	近松座第五回興行	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第109号	①大正1年9月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正1年9月近松座所演
	文楽と近松	劇評	近松秋江		演芸画報	第6年 第11号	①大正1年11月 ④演芸画報社 ③大正1年9月近松座所演
	第一種 * 本朝二十四孝 桔梗が原の段 * 本朝二十四孝 景勝下駄の段	梗概 批評	徳島県教育会		義太夫調査書		①大正2年4月 ④徳島県教育会 ③大正2年7月増補訂正再版
	第三種 * 本朝二十四孝 勘助住家の段						
327	近松座十一月興行	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第124号	①大正2年11月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正2年11月近松座所演
	御霊文楽座（大正3年2月10日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正3年2月御霊文楽座所演（短評）。「朝日新聞」 「毎日新聞」より転載
	御霊文楽座（大正4年4月18日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正4年4月御霊文楽座所演。「毎日新聞」「朝日新聞」より転載

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
122、カ 140	横蔵印象記一勘助物語の切ま で一	参考	杉賈阿弥		演芸画報	第3年 第4～6号	①大正5年4・5・6月 ④演芸倶楽部 ③歌舞伎の型
122	御霊文楽座（大正6年9月22日）	劇評	無憂樹		義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正6年9月御霊文楽座所演。「毎日新聞」より転載
	浄瑠璃と操り芝居 第九章 義太夫節浄瑠璃の興衰 衰滞時代の百二十五年 * 僅に景気を挽回し得た『本朝 二十四孝』	評判	秋山木芳（清）		義太夫大鑑	上巻	①大正6年12月 ④満州日日新聞社
			近世文芸研究叢 書刊行会＝編		近世文芸研究叢書 第二期芸 能篇23 浄瑠璃3		①平成9年8月 ④クレス出版 ③秋山木芳『義太夫大鑑』を収録
	越路太夫一座	劇評	雙角		新演芸	第4巻 第1号	①大正8年1月 ④玄文社 ③大正7年12月4日東京歌舞伎座所演
	本朝二十四孝 十種香の煙	小説 化	楠山正雄		新演芸	第4巻 第6号	①大正8年6月 ④玄文社
43、122、 カ140	本朝廿四孝 三段目切 勘助住家の段	演出	杉山其日庵（茂 丸）		黒白	35号	①大正9年2月 ④黒白発行所
			近世文芸研究叢 書刊行会＝編		浄瑠璃素人講釈		①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻
			近世文芸研究叢 書刊行会＝編		近世文芸研究叢書 第二期芸 能篇25 浄瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃素人講 釈』を収録
540			杉山其日庵＝著 ／内山美樹子・ 桜井弘＝編		浄瑠璃素人講釈	（上）	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
43、154、 221、ブ 18、274	本朝廿四孝 四段目切 十種香の段	演出	杉山其日庵（茂丸）		黒白	37号	①大正9年4月 ④黒白発行所
					浄瑠璃素人講釈		①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻
			近世文芸研究叢 書刊行会＝編		近世文芸研究叢書 第二期芸 能篇25 浄瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃素人講 釈』を収録
			杉山其日庵＝著 ／内山美樹子・ 桜井弘＝編		浄瑠璃素人講釈	(上)	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載
	『二十四孝』の八重垣姫	評論	島中雄三		浄瑠璃に現はれた女の情操		①大正9年4月 ④実業之日本社
	近江源氏先陣館 八ツ目切 盛綱首実検の段	演出	杉山其日庵（茂丸）		黒白	42号	①大正9年9月 ④黒白発行所 ③豊竹鐘太夫の「狐火」
					浄瑠璃素人講釈		①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻
			近世文芸研究叢 書刊行会＝編		近世文芸研究叢書 第二期芸 能篇25 浄瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃素人講 釈』を収録
			杉山其日庵＝著 ／内山美樹子・ 桜井弘＝編		浄瑠璃素人講釈	(上)	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	伊賀越道中双六 八ツ目切 岡崎雪降の段	演出	杉山其日庵（茂丸）		黒白	49号	①大正10年4月 ④黒白発行所 ③（1）竹本住太夫が三段目を語ったとある。記録はない
浄瑠璃素人講釈						①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻	
近世文芸研究叢書刊行会＝編					近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃素人講釈』を収録
杉山其日庵＝著 ／内山美樹子・桜井弘＝編					浄瑠璃素人講釈	（下）	①平成16年11月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈・解題・解説・人名索引付載
122	御霊文楽座（大正10年10月30日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正10年10月御霊文楽座所演。「毎日新聞」より転載
	「八重垣姫」に就いて	評論	三宅周太郎		演劇往来		①大正11年2月 ④新潮社
540	文楽の一月興行所感	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第238号	①大正14年2月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正14年1月御霊文楽座所演
	文楽三題 一、十四年八月の文楽	劇評	三宅周太郎		演劇評話		①昭和3年3月 ④新潮社 ③大正14年7月東京歌舞伎座所演（短評）
	中座（大正14年10月1日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正14年10月中座所演（一言）。「毎日新聞」より転載

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽新聞評抜粋 一、昭和三年七月 * その第三回	劇評	三宅周太郎		文楽之研究		①昭和5年6月 ④春陽堂 ③昭和3年7月東京新橋演舞場所演（短評）
	人形浄瑠璃と芝居との「鮎屋」				続文楽の研究		①昭和16年11月 ④創元社 ③創元選書84。改題して『文楽之研究』より再掲
					新編続文楽の研究		①昭和23年6月改訂初版 ④創元社 ③創元選書84
					定本続文楽の研究		①昭和27年6月 ④創元社 ③創元文庫
					続文楽の研究		①昭和29年9月 ④角川書店 ③角川文庫
							①平成17年9月 ④岩波書店 ③岩波文庫。解題・解説「三宅周太郎の文楽考現学」 （児玉竜一）付載
ブ18	『本朝廿四孝』絵尽し	資料			日本名著全集 第一期出版 江戸文芸之部	第7巻 浄瑠璃 名作集 下	①昭和4年2月 ④日本名著全集刊行会
	本朝廿四孝	解説	黒木勘蔵				
	近松以後名作解題 武田信玄/長尾謙信本朝廿四孝				近松以後		①昭和17年9月 ④大東出版社 ③大東名著選42
540、627	六月の文楽座	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第292号	①昭和5年6月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和5年6月四ツ橋文楽座所演
	語り場分割の英断	劇評	石割松太郎		演芸月刊	第13輯	①昭和5年6月 ④演芸月刊社 ③昭和5年6月四ツ橋文楽座所演

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考	
	文楽物語及び文楽人形物語 文楽物語 近事篇（その二） * 初代、二代目（当代）古朝太夫及び故清六の話 * 人形雑話	芸話	三宅周太郎		文楽之研究		①昭和5年6月 ④春陽堂 ③（1）豊竹古朝太夫の「十種香」と八重垣姫の出	
改修文楽の研究					①昭和15年3月 ④創元社 ③創元選書40			
新編文楽の研究					①昭和22年11月改訂初版 ④創元社 ③創元選書40			
定本文楽の研究					①昭和27年5月 ④創元社 ③創元文庫			
文楽の研究					①昭和29年9月 ④角川書店 ③角川文庫			
					①平成17年8月 ④岩波書店 ③岩波文庫。解題（児玉竜一）・解説（今尾哲也）付載			
カ476	三月芝居情趣録 * 本朝廿四孝の奥庭	解説 芸談	池田鏝子		演芸画報	第25年 第4号	①昭和6年4月 ④演芸画報社 ③（3）吉田文五郎（難波掾）の奥庭の八重垣姫にふれる	
	雪の中の竹の子	小説 化	岡本綺堂・額田六福		家庭日本芝居物語		①昭和8年5月 ④富山房 ③三段目を小説化	
					日本芝居物語		①昭和24年8月 ④富山房	
	文楽夜話 * ゲンマの仕掛物	演出	石割松太郎		近世演劇雑考		①昭和9年9月 ④岡倉書房 ③「狐火」の仕掛け	
	第一編 芸の生涯 三、文楽座時代 * 三段目切語りとなる	芸談	木谷正之助（蓬吟）		五世弥太夫 芸の六十年		①昭和9年10月 ④私家版 ③「勘助住家」	
	第二編 人物と芸格 一、弥太夫の人と芸と 六、どんな端場でも						(7) 竹本源太夫	③「小手返し」
	九、驚き入った『つらだましひ』						(7) 野沢吉兵衛	③「勘助内」

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
221、579	本朝廿四孝	解説 梗概	樋口慶千代		評/釈江戸文学叢書 傑作浄 瑠璃集	下	①昭和10年12月 ④大日本雄弁会講談社
							①昭和45年9月 ④講談社
	文楽座如月狂言評	劇評	升屋治三郎		劇場	第2巻 第3号	①昭和12年3月 ④劇場社 ③昭和12年2月四ツ橋文楽座所演（短評）
	一、御挨拶に代へて *辰造さんのおみわとお里	芸談	鴻池幸武＝編	(1) 吉田栄三	吉田栄三自伝		①昭和13年11月 ④相模書房 ③昭和23年5月武智鐵二の序等を加え和敬書店より再版。 (3) 吉田辰造の八重垣姫
	三、彦六座時代 *コレラの流行						③明治19年の彦六座
43	七、文楽座へ *「狐火」の七ツ拍子						③明治32年1月御霊文楽座所演「奥庭」の演出
	八、借金の為明楽座へ *義平次						③明治33年7月明楽座所演、兵之助の越名弾正
	九、文楽座へ復帰 *パンの為に						③明治36年3月御霊文楽座
	*大隅さんの「鎌腹」						③明治39年3月御霊文楽座所演、吉田多為蔵の景勝
43	十、松竹さんになってから *八重垣姫の代役						③明治42年9月御霊文楽座所演
	*楽屋の菅相丞						③大正3年2月御霊文楽座所演
221、 274、 514、579	*「狐火」の早替り						③大正8年5月御霊文楽座所演
	*新富座へ						③大正8年8月東京新富座所演
	*人形の撮影	③大正10年夏、東京で「十種香」の活動写真を撮った時の逸話					
	*歌舞伎座の大舞台	③大正14年7月東京歌舞伎座所演					
122、540	明治座の文楽聴観	劇評	安部豊		演芸画報	第33年 第9号	①昭和14年9月 ④演芸画報社 ③昭和14年8月東京明治座所演

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	半二の浄瑠璃	研究	守隨憲治		義理		①昭和16年7月 ④甲鳥書林
					守隨憲治著作集	第4巻	①昭和54年2月 ④笠間書院 ③『義理』『近松』他を収録
	新橋演舞場の文楽	劇評	鴻池幸武		浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第401号	①昭和16年8月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年7月東京新橋演舞場所演（短評）
					鴻池幸武文楽批評集成		①平成31年2月 ④大阪大学出版会 ③多田英俊＝編著
	盆替り芝居行脚	劇評	鴻池幸武		浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第403号	①昭和16年10月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和16年9月四ツ橋文楽座所演
					鴻池幸武文楽批評集成		①平成31年2月 ④大阪大学出版会 ③多田英俊＝編著
	鶴沢叶・聞書 * 撰津大掾さんの御勉強 * 玉造さんの狐の苦心	芸談	茶谷半次郎	(4) 鶴沢叶 (2) 鶴沢清 八)	聞書 芸と文学		①昭和17年6月 ④全国書房 ③『文芸春秋』昭和7～8年及び『週刊朝日』昭和9年掲載分をまとめたもの。竹本撰津大掾の十八番「廿四孝・四段目」の勉強ぶりと「奥庭の段」の狐
					文楽聞書		①昭和21年5月 ④全国書房
	第五章 劇的性格論 二 時代物系の劇的性格 (一) 操浄瑠璃系時代物の劇的性格 21 「妹背山婦女庭訓」及び 「本朝二十四孝」の劇的性格	研究	中村吉蔵		日本戯曲技巧論		①昭和17年7月 ④中央公論社
	芸談文楽鑑賞(十一) 『十種香』一本朝廿四孝四段目 切一	芸談	山口廣一	(6) 鶴沢友次 郎	演芸画報	第36年 第12号	①昭和17年12月 ④演芸画報社
43、154、 221、 274、579					四段目『十種香』	文楽の鑑賞	

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
43、カ 71、ブ 18、221、 274、514	八重垣姫	芸談	中村泰昌	(3) 吉田文五 郎(難波掾)	文五郎芸談	第7(職)	①昭和18年2月 ④桜井書店 ③昭和22年10月改装版、昭和23年9月再版
					浄瑠璃名作集		①昭和36年3月 ④筑摩書房 ③古典日本文学全集25。昭和41年12月普及版
					生活の随筆		①昭和37年11月 ④筑摩書房
					芸術の思想		①昭和39年8月 ④筑摩書房 ③現代日本思想大系第14。矢内原伊作＝編
					浄瑠璃名作集		①昭和50年10月 ④筑摩書房 ③古典日本文学全集24
					日本の芸談		第3巻 能 狂言 文楽
名作浄瑠璃解説 本朝二十四孝	解説 梗概	(6) 竹本住太 夫	(9) 竹本文字 大夫(7) 竹 本住太夫)・佐 藤靄子	六代竹本住大夫	文楽浄瑠璃物語		①昭和18年2月 ④正文館書店 ③(6) 竹本住大夫文楽生活年表付載。「十種香之段」本 文と頭注付載
							①昭和57年7月 ④青蛙房 ③本文と頭注を削除して収録
文楽生活四十年 *白石噺と二十四孝	芸談	(6) 竹本住太 夫	(9) 竹本文字 大夫(7) 竹 本住太夫)・佐 藤靄子	六代竹本住大夫	文楽浄瑠璃物語		①昭和18年2月 ④正文館書店 ③捨子の工夫
							①昭和57年7月 ④青蛙房

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
540	若手競演一文楽の『廿四孝』 評一	劇評	美保土筆		浄瑠璃雑誌	第419号	①昭和18年5月 ④浄瑠璃雑誌社 ③昭和18年4月四ツ橋文楽座所演
540	人形衣裳調べ一文楽座四月狂言 より一	演出	吉永孝雄＝記	(2) 吉田玉七			
	本朝二十四孝（武田勝頼、上杉 景勝、山本勘助、直江山城守の 事）	考証	坂本箕山（辰之 助）		戯曲と史実		①昭和18年8月 ④日比谷出版社
					芝居と史実		①昭和22年1月 ④東照堂
	* 清水町の師匠と検校	芸談	鴻池幸武	(1) 鶴沢道八	道八芸談		①昭和19年1月 ④私家版 ③武智鐵二の注解を付載して昭和62年11月ペリかん社よ り復刊、日本芸術名著選4。平成28年11月ぶんがく社より ペリかん社版を復刻（花もよ叢書009、文庫版）。「狐 火」の稽古
	* 「壱阪寺の段」						③検校の音遣い
	* 中野源松さん						③明治18年11月東京猿若町一丁目所演の「筈掘り」
	* 三味線の話 三味線屋						③「御殿」の調子
	* 三味線の話 三味線の拵え						③「御殿」のサワリ
43、122、 154	本朝廿四孝	解説	山口廣一		文楽の鑑賞		①昭和19年1月 ④畝傍書房 ③昭和25年4月雪月花書房より再版
43、154、 221、 274、579	四段目『十種香』	芸談		(6) 鶴沢友次 郎			③『演芸画報』昭和17年12月号掲載のものに加筆収録
	近松半二	研究	園田民雄		浄瑠璃作者の研究		①昭和19年2月 ④東京堂
	人形 人形雑話 ●人形修業の半生 * 紋八稲荷と狐火	芸談	谷口正太郎	(2) 桐竹紋十 郎	文楽の人形と三味線		①昭和19年10月 ④文楽研究会 ③狐の遣い方
	団平の憶ひ出一鶴澤道八師に訊 く一 * 団平の日常	芸談	茶谷半次郎	(1) 鶴沢道八	文楽聞書		①昭和21年5月 ④全国書房 ③「狐火の段」の詞にある「検校」の研究
	文楽亡びず	劇評	井上吉次郎		幕間	第2巻 第2号	①昭和22年2月 ④和敬書店 ③昭和22年1月四ツ橋文楽座所演
	時代狂言の研究と鑑賞 * 「廿四孝」の舞台的興趣	鑑賞	高谷伸		演劇界	第5巻 第8号	①昭和22年12月 ④日本演劇社

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	名人栄三を偲ぶ	劇評	大西重孝		幕間	第3巻 第3号	①昭和23年3月 ④和敬書店 ③昭和23年2月四ツ橋文楽座所演
	芝居の中の女性 Ⅰ 純情可憐な娘たち * 「鮎屋」のお里・其他	鑑賞	高岡宣之		歌舞伎の女性		①昭和24年1月 ④新府書房 ③八重垣姫
	Ⅱ 曰くのある女 「二十四孝」の濡衣						③濡衣
	歌舞伎百趣 89本朝廿四孝	解説	堂本寒星		歌舞伎百趣		①昭和24年7月 ④河原書店
	* 古靱襲名・初代古靱	芸談	茶谷半次郎	豊竹山城少掾	山城少掾聞書		①昭和24年8月 ④和敬書店 ③ (1) 豊竹古靱太夫の「十種香」濡衣
	* 稚ごゝろ						③明治18年11月東京猿若町一丁目所演の「筍掘り」
	* 忘れ得ぬひとびと						③「勘助住家」内の西風の大落しと竹本撰津大掾の四段目
	文楽、文楽座へ帰る 附 組合派の松坂屋公演	劇評	大西重孝		幕間	第5巻 第2号	①昭和25年2月 ④和敬書店 ③昭和25年1月松坂屋会館所演（短評）
	山城の重量感	劇評	安藤鶴夫		安藤鶴夫作品集	Ⅲ芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③昭和25年3月東京新橋演舞場所演。初出＝「スクリーン・ステージ」。平成9年3月復刻版。『文楽 日本の伝統』『古靱芸談』『桐竹紋十郎』『芸と人』『芸について』他を収録
	文楽の安定感	劇評	沼艸雨		幕間	第5巻 第5号	①昭和25年5月 ④和敬書店 ③昭和25年4月四ツ橋文楽座所演
	近松半二	解説	守隨憲治		増補/改訂日本文学大辞典	第5巻	①昭和26年1月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂
	近松半二の脚色譜表	研究	守隨憲治		国語と国文学	第28巻 第3号	①昭和26年3月 ④至文堂
					守隨憲治著作集	第4巻	①昭和54年2月 ④笠間書院
カ71、カ 140	本朝廿四孝	解説 梗概	近藤忠義		増補/改訂日本文学大辞典	第6巻	①昭和26年4月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽の上京	劇評	内海繁太郎		幕間	第6巻 第6号	①昭和26年6月 ④幕間和敬書店 ③昭和26年5月東京新橋演舞場所演（短評）
	「本朝二十四孝」の演劇性	解説	伊志多一郎		四ツ橋文楽座プログラム		①昭和28年3月
327、627	見どころ聞きどころ	鑑賞	吉永孝雄				④松竹
	珍しい廿四孝の通し	劇評	鷲尾隆栄		舞台展望	第3巻 第4号	①昭和28年4月 ④舞台展望社 ③昭和28年3月四ツ橋文楽座所演
	文楽人形用語（十七） * 棒足	演出	大西重孝／三村 幸一＝撮影		文楽人形の芸術		③勤助の棒足
	2 人形の基本 人形の型（演技） * 棒足		大西重孝			①昭和43年5月 ④演劇出版社	
540、627	「本朝廿四孝」通し見物記	劇評	大鋸時生		幕間	第8巻 第4号	①昭和28年4月 ④幕間和敬書店 ③昭和28年3月四ツ橋文楽座所演
540	第三回文楽座若手勉強会	劇評	木村豊三郎		舞台展望	第3巻 第5号	①昭和28年5月 ④舞台展望社 ③昭和28年3月23日四ツ橋文楽座所演
	文楽人形用語（十八） * 腕まくり	演出	大西重孝／三村 幸一＝撮影		文楽人形の芸術		③横蔵の腕まくり
	2 人形の基本 人形の型（演技） * 腕まくり		大西重孝			①昭和43年5月 ④演劇出版社	
	三和会の若手勉強会 附 無形文化財のこと	劇評	内海繁太郎		幕間	第10巻 第3号	①昭和30年3月 ④幕間和敬書店 ③昭和30年2月三越劇場所演
カ71、 221、カ 476、540	題名の由来・本朝廿四孝 一唐土廿四孝と本朝廿四孝一	解説	郡司正勝		幕間	第11巻 第7号	①昭和31年7月 ④幕間和敬書店
	唐土廿四孝と本朝廿四孝				かぶき袋		①昭和45年6月 ④青蛙房
	土佐と津大夫	劇評	沼艸雨		幕間	第12巻 第6号	①昭和32年6月 ④幕間和敬書店 ③昭和32年5月道頓堀文楽座所演
	廿四孝	鑑賞	三宅周太郎		演劇界	第15巻 第7号	①昭和32年6月 ④演劇出版社 ③増刊「歌舞伎狂言百科Ⅰ」

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	本朝廿四孝	解説 梗概	高野正巳		日本古典鑑賞講座	第21巻 浄瑠璃歌舞伎	①昭和33年2月 ④角川書店 ③高野正巳・河竹繁俊＝編。「十種香の段」本文抜粋付
	住太夫の引退披露興行	劇評	吉永孝雄		幕間	第13巻 第10号	①昭和33年10月 ④幕間和敬書店 ③昭和33年9月道頓堀文楽座所演（短評）
	1 浄瑠璃の作者と作品 爛熟期の竹本座作者 近松半二 * 本朝廿四孝	解説	大西重孝・吉永 孝雄		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③三村幸一＝写真
	2 名作の舞台 * 武田信玄/長尾謙信本朝廿四 孝	解説 写真					③三村幸一＝写真
	3 人形の基本的な型 * ひぐち	演出					③八重垣姫のひぐち
	五十年ぶりの「夏祭」の通しと 「天網島」	劇評	吉永孝雄		幕間	第14巻 第8号	①昭和34年8月 ④幕間和敬書店 ③昭和34年7月道頓堀文楽座所演
	古典劇のスケールー『廿四孝』 をめぐってー	評論	花田清輝		演劇界	第18巻 第1号	①昭和35年1月 ④演劇出版社
	『廿四孝』をめぐって				もう一つの修羅		①昭和36年10月 ④筑摩書房
					花田清輝著作集	IV	①昭和39年12月 ④未来社 ③『近代の超克』『もう一つの修羅』を収録
					もう一つの修羅		①昭和49年 ④筑摩書房
					現代日本のエッセイ もう一 つの修羅		①平成3年2月 ④講談社 ③講談社文芸文庫
					大活字版 ザ・花田清輝	下巻	①平成20年5月 ④第三書館 ③『復興期の精神』『もう一つの修羅』他を収録
	文楽の常道	劇評	沼艸雨		幕間	第15巻 第2号	①昭和35年2月 ④幕間和敬書店 ③昭和35年1月道頓堀文楽座所演
	近松半二	解説	角田一郎		演劇百科大事典	第3巻	①昭和35年3月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編著代表

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	本朝廿四孝	解説 梗概	近藤忠義		演劇百科大事典	第5巻	①昭和36年9月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編著代表
					総合日本戯曲事典		①昭和39年2月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編纂
	芸談 綱大夫の代々	芸談	(8) 竹本綱大夫		でんでん虫		①昭和39年6月 ④布井書房 ③(4) 竹本綱太夫
	歌舞伎狂言鑑賞の手引4 本朝廿四孝	鑑賞	松井敏明		演劇界	第23巻 第4号	①昭和40年4月 ④演劇出版社
	人形浄瑠璃を作る人たち IV近松半二ー最後の旗手ー	入門	森晋六		文楽のみかた		①昭和40年10月 ④創思社
	奮起せよ文楽	劇評	内山美樹子		演劇界	第23巻 第11号	①昭和40年11月 ④演劇出版社 ③昭和40年10月東京三越劇場所演
					文楽 二十世紀後期の輝きー 劇評と文楽考ー		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	本朝廿四孝	研究	松下美那子		近世演劇の思想と伝統ー時代 浄瑠璃の研究ー		①昭和41年1月 ④東京都立大学伝統文化の会 ③森山重雄＝編
	義太夫国紳士録 * 祖父師七世竹本綱大夫ー法善 寺の師匠	芸談	(8) 竹本綱大夫		芸談かたつむり		①昭和41年4月 ④布井書房 ③(7) 竹本綱太夫の「十種香」
	* 四世豊沢広作師匠ーまむし二 はいのお稽古						③(4) 豊沢広作の「桔梗力原」
	* 六世竹本弥大夫師ー大酒豪						③「鉄砲渡し」
	* 竹本叶大夫師ー学者大夫						③「勘助住家」
	* 七世豊竹駒大夫師						③(7) 豊竹駒太夫の「下駄場」
	本朝廿四孝	グラフィア	郡司正勝＝編著 ／三村幸一＝撮 影		文楽		①昭和41年10月 ④集英社 ③カラーコンパクト1009
	歴史もの (一六) 本朝廿四孝の実説	考証	荒川秀俊		新・江戸の実話<実事譚の世界>		①昭和41年10月 ④桃源社 ③桃源選書
					江戸の実話 <実事譚の世界> 2		①昭和51年5月 ④桃源社 ③桃源社新書

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	桐竹紋十郎 第一章 3	芸談	安藤鶴夫	(2) 桐竹紋十郎	文楽◎桐竹紋十郎		①昭和42年1月 ④求龍堂（限定版） ③中西敬二郎「二世桐竹紋十郎年譜」を収録。竹本摂津大掾の八重垣姫
	第二章 2						③(3) 吉田文五郎（難波掾）の情
	第二章 5						③八重垣姫で(3) 吉田文五郎（難波掾）に褒められたこと
					安藤鶴夫作品集	Ⅲ芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③平成9年3月復刻版。『文楽 日本の伝統』『古楽芸談』『桐竹紋十郎』『芸と人』『芸について』他を収録
					文楽 芸と人		①昭和55年1月 ④朝日新聞社 ③朝日選書150。『文楽 日本の伝統』『古楽芸談』『桐竹紋十郎』を収録
	本朝廿四孝	鑑賞	戸部銀作		演劇界	第27巻 第11号	①昭和44年9月 ④演劇出版社 ③増刊「歌舞伎狂言の鑑賞2」
	八七年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八八年版	①昭和63年5月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③(4) 竹本津太夫の「笥掘り」（昭和44年10月朝日座・11月東京国立劇場小劇場所演）
	一九八七年の文楽						文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—
	文楽の首シリーズ12	解説	斉藤清二郎		国立劇場文楽公演解説書	第12回	①昭和44年10月 ④国立劇場事業部 ③「桔梗原」越名弾正・「村上上使」村上義清・「笥掘りから勘助物語」横蔵後に山本勘助・「謙信館」八重垣姫・「謙信館・道三最後」筆作実は武田勝頼の首
	鑑賞ノート 本朝廿四孝の通しについて		山田庄一				
	珍しい『廿四孝』の通し	劇評	高木浩志		演劇界	第27巻 第14号	①昭和44年12月 ④演劇出版社 ③昭和44年11月東京国立劇場小劇場所演
	近松半二私論	研究	藤井康雄		劇と評論	第15巻 第4号	①昭和46年4月 ④「劇と評論」の会

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「本朝廿四孝」	参考	浜村米蔵		国立劇場歌舞伎公演解説書	第44回	①昭和46年10月 ④国立劇場事業部
	八重垣姫と濡衣	随想	田島淳				
	近松半二とその作品	研究	吉永孝雄				
	本朝廿四孝ゆかりの地	史跡					
	「本朝廿四孝」の背景 信玄と謙信	史実	(長)				
	ヲクリ研究序論	研究	井野辺潔		大阪音楽大学研究紀要	第10号	①昭和46年12月 ④大阪音楽大学 ③「筍掘り」のヲクリ
	第二部 構造と歴史 二、ヲクリ研究序説				浄瑠璃史考説		①平成3年2月 ④風間書房
	近松半二の作風	研究	河竹登志夫		季刊「歌舞伎」	第18号	①昭和47年10月 ④松竹株式会社演劇部 ③特集〈近松半二の人と作品〉
	近松半二のドラマツルギー		内山美樹子				
	近松半二の舞台性		小笠原恭子				
	邦楽の技法 「十種香」の段より ーヘテロフォニーを中心にー	研究	鎌倉恵子		立教大学日本文学	第29号	①昭和47年12月 ④立教大学日本文学会
	演目解説 本朝廿四孝 十種香の段	解説	武智鐵二		土門拳 文楽		①昭和47年12月 ④駸々堂出版 ③別冊『土門拳文楽 その背景』に収録
					定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
					土門拳全集	6文楽	①昭和60年11月 ④小学館 ③〈見所〉は省く
	漸衰期の浄瑠璃・近松半二	研究	船曳政夫		国語国文	第42巻 第6号	①昭和48年6月 ④中央図書出版社
	『本朝廿四孝』細見 *七代目菊五郎 襲名狂言	研究 参考	小池章太郎		季刊「歌舞伎」	第22号	①昭和48年10月 ④松竹株式会社演劇部 ③梗概・作品研究を含む
	五章 圧倒する迫力 時代物 本朝廿四孝	解説	吉永孝雄		カラー文楽の魅力		①昭和49年1月 ④淡交社 ③三村幸一＝写真
	本朝廿四孝	解説	大鋸時生・三村 幸一		文楽一鑑賞のためにー		①昭和50年10月 ④保育社 ③カラーボックス338

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	古典は消えて行く、されど一撰 津大掾の十種香	芸談	武智鐵二		月刊78	第1巻 第5号	①昭和50年10月 ④鎌倉書林
	古典は消えて行く、されど *撰津大掾の「十種香」				定本・武智歌舞伎	③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
	七五年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九七六年版	①昭和51年5月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和50年10月朝日座・12月東京国立劇場小劇場所演
	一九七五年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	文楽をささえる人たち 小道具	参考	(I)		国立劇場文楽公演解説書	第36回	①昭和50年12月 ④国立劇場事業部
	鑑賞ガイド	鑑賞	(Y)				
	力強い勤助像を造形	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和50年12月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」昭和50年12月17日
	不振な『廿四孝』	劇評	杉本嘉代子		演劇界	第34巻 第2号	①昭和51年2月 ④演劇出版社 ③昭和50年12月東京国立劇場小劇場所演
カ476	廿四孝	鑑賞	野口達二		季刊「歌舞伎」	別冊6号	①昭和51年2月 ④松竹株式会社演劇部 ③歌舞伎名作鑑賞第2集
	関西劇信 関西の正月公演では	劇評	大鋸時生		演劇界	第35巻 第2号	①昭和52年2月 ④演劇出版社 ③昭和52年1月朝日座所演（短評）
	七七年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九七八年版	①昭和53年5月 ④早稲田大学出版部 ③昭和52年1月朝日座所演（一言）
	一九七七年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	今は亡き喜左衛門師匠を偲び	芸談	(2) 野沢勝 平・佐藤靄子＝ 編	(4) 豊松清十 郎	二代野澤喜左衛門		①昭和52年5月 ④青蛙房 ③「十種香・奥庭」
	狂言豆知識 『本朝廿四孝』の周辺	参考	(類)		国立劇場歌舞伎公演解説書	第86回	①昭和52年6月 ④国立劇場事業部
	●監修のことば 義太夫歌舞伎の本質 私の理念 は現行演出の修正にある	解説	山口廣一				
	近松半二について	研究	森修				

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	豪華絢爛たる半二の舞台	梗概	鶴見誠				
	「廿四孝」の思い出	鑑賞	網野菊				
	ゆかりの地をたずねて	史跡					
	武田・上杉人物群像 —おもに歴史にもとずいて	史実	土橋治重				
327	文楽名作鑑賞 本朝廿四孝	解説 梗概	山田庄一		文楽入門		①昭和52年6月 ④文研出版 ③文研の芸能鑑賞シリーズ
					文楽		①平成2年1月 ④ぎょうせい ③伝統芸能シリーズ3。『文楽入門』の改訂版
	共同研究 「武田信玄/長尾謙信 本朝廿 四孝」論 —三段目を中心に—	研究	内山美樹子・松 井今朝子		藝能史研究	第58号	①昭和52年7月 ④藝能史研究会 ③特集〈近松半二〉
カ413	「本朝廿四孝」論		内山美樹子		浄瑠璃史の十八世紀		①平成1年10月 ④勉誠社 ③『芸能史研究』第58号掲載のものを加筆修正
カ413	付録（一）三段目の物語		内山美樹子・松 井今朝子				
カ413	付録（二）三段目の構造		松井今朝子				
	芸能史手帳 近松半二著作年譜と研究の手引 き	研究	松井今朝子		藝能史研究	第58号	①昭和52年7月 ④藝能史研究会 ③特集〈近松半二〉
					浄瑠璃作品要説	<3>近松半二 篇	①昭和59年3月 ④国立劇場 ③国立劇場芸能調査室＝編
	貞節と忍従の性根—世話女房十 六人 * お種の母性	評論	渡辺保		季刊「歌舞伎」	第38号	①昭和52年10月 ④松竹株式会社演劇部
					女形百姿		①昭和53年9月 ④青蛙房 ③青蛙選書55
	時代もの深窓の令嬢—赤姫十 六人 * 八重垣姫の裨褱	評論	渡辺保		季刊「歌舞伎」	第39号	①昭和53年1月 ④松竹株式会社演劇部
					女形百姿		①昭和53年9月 ④青蛙房 ③青蛙選書55
	近松半二の戯曲構成—『本朝廿 四孝』を中心に—	解説	横山正		国立劇場文楽公演解説書	第46回	①昭和53年8月 ④国立劇場事業部
	「絵本太功記」若々しい勘十郎	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和53年8月東京国立劇場小劇場所演（短評）。初出＝ 「読売新聞」昭和53年8月26日

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	近松半二の作品における身替り 趣向の考察	研究	塚田千恵美		演劇学	第20号	①昭和54年3月 ④早稲田大学文学部演劇研究室
	八一年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八二年版	①昭和57年5月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和56年1月朝日座所演（短評）
	一九八一年の文楽						①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	観賞のしおり この公演のみどころ聞きどころ	鑑賞	権藤芳一		京都府立文化芸術会館文楽公 演プログラム		①昭和57年10月 ④京都府文化事業団
	本朝廿四孝	解説	古井戸秀夫		研究資料日本古典文学	第10巻 劇文学	①昭和58年12月 ④明治書院 ③「概括」「成立および概観」「梗概」「諸本・翻刻」 「参考文献」より成る。「近松半二」と題して作者解説 あり
	近松半二と「本朝廿四孝」 鑑賞ガイド	解説 鑑賞	権藤芳一 岡田聡		国立劇場文楽公演解説書	第67回	①昭和58年12月 ④国立劇場事業部
	新鮮な八重垣姫	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和58年12月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売 新聞」昭和58年12月14日
	文楽劇信 濡衣の生きてこない通し	劇評	富岡泰		演劇界	第42巻 第1号	①昭和59年1月 ④演劇出版社 ③昭和58年12月東京国立劇場小劇場所演
	八三年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八四年版	①昭和59年5月 ④早稲田大学出版部 ③昭和58年12月東京国立劇場小劇場所演（一言）
	一九八三年の文楽						①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	女形人形のかしらと型	芸談		吉田文雀	文楽	第2号	①昭和59年2月 ④「文楽」編集部 ③昭和58年12月7日東京渋谷区立勤労福祉会館で行われた 人形浄るり一楽会主催講演再録
ブ18、 274、 435、 540、627	本朝廿四孝	解説 梗概	灰田由記子・吉 野裕子		浄瑠璃作品要説	<3>近松半二 篇	①昭和59年3月 ④国立劇場 ③国立劇場芸能調査室＝編
	青春の群像 * 青春の群像（一）	芸談	高木浩志	(4) 竹本越路 大夫	四代竹本越路大夫		①昭和59年3月 ④淡交社 ③「下駄場」

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	もう一人の親 * 喜左衛門師匠 (三)						③「十種香」
	語り物あれこれ * 袖萩祭文						③「勘助住家」の越路
	父の思い出	芸談	田結莊哲治	(4) 竹本津大 夫	文楽三代 竹本津大夫聞書		①昭和59年4月 ④大阪書籍 ③朝日カルチャーブックス35。「十種香」から「狐火」への舞台転換
	近松半二	解説	原道生		日本古典文学大辞典	第4巻	①昭和59年7月 ④岩波書店
	本朝廿四孝	解説梗概	馬場憲二		日本古典文学大辞典	第5巻	①昭和59年10月 ④岩波書店
	襲名の思い出 『本朝廿四孝』「十種香の段」 「狐火の段」	芸談 写真	池田陽子・文楽 協会＝写真	(4) 豊松清十 郎	豊松清十郎偲ぶ草		①昭和60年3月 ④豊松清十郎後援会 ③初出＝『伝統芸能』（昭和53年12月1日）
	十、文字大夫襲名 * 古住改め文字大夫	解説 芸談	(7) 竹本住大 夫・和多田勝		文楽説き語り 言うて暮して いるうちに		①昭和60年4月 ④創元社 ③頭注部分に解説、初役の濡衣の思い出
	82愛の奇跡・狐の助力 『本朝廿四孝』十種香	入門	権藤芳一		文楽の世界		①昭和60年6月 ④講談社
	第八章 太夫様式 六節 豊竹鐘太夫	研究	山田智恵子		義太夫節の様式展開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道萬里雄・他＝著。「十種香」
	六節 豊竹島太夫		田中悠美子				③「勘助住家」
	六節 竹本染太夫		茂手木潔子				③二の切
	六節 竹本春太夫		井野辺潔				③「十種香」のヲクリ
	第九章 様式の時代変遷						③「勘助住家」「十種香」
	第三章 様式 四、様式の時代変遷		浄瑠璃史考説		①平成3年2月 ④風間書房		
	楽譜《本朝廿四孝・勘助住家》 より	採譜	田中悠美子		義太夫節の様式展開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道萬里雄・他＝著。(9) 竹本文字太夫 (7) 竹本住太夫・(5) 鶴沢燕三＝演奏
			茂手木潔子				③(8) 竹本綱太夫・(10) 竹沢弥七＝演奏
			廣井榮子				③(9) 竹本文字太夫(7) 竹本住太夫・(5) 鶴沢燕 三＝演奏
	楽譜《本朝廿四孝・十種香》よ り		山田智恵子				③(8) 竹本綱太夫・(10) 竹沢弥七＝演奏 ③(4) 竹本越路太夫・(2) 野沢喜左衛門＝演奏

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽の通し狂言について 本朝廿四孝 * 勘助住家の段	芸談		(5) 豊竹呂大 夫	文楽	第5号	①昭和62年2月 ④文楽編集部 ③昭和61年5月8日野口英世記念館（東京）での人形浄る り一楽会主催「呂大夫の文楽サロン」講演再録
	武田信玄一孝か不孝か	史実	奈良本辰也		国立文楽劇場文楽公演解説書	第24回	①昭和63年4月 ④国立劇場
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結莊哲治				
	『反魂香』と『十種香』	劇評	藤井康雄		演劇界	第46巻 第5号	①昭和63年5月 ④演劇出版社 ③昭和63年4月国立文楽劇場所演
	二人の勝頼一「父と子」の主 題一	鑑賞	原道生		国立劇場文楽公演解説書	第84回	①昭和63年5月 ④国立劇場
	気品漂う玉男の勝頼	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和63年5月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新 聞」昭和63年5月12日
	伊達大夫襲名と『廿四孝』の半 通し	劇評	富岡泰		演劇界	第46巻 第6号	①昭和63年6月 ④演劇出版社 ③昭和63年5月東京国立劇場小劇場所演
	八八年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八六年版	①平成1年5月 ④早稲田大学出版部 ③昭和63年4月国立文楽劇場・5月東京国立劇場小劇場所 演（一言）
	一九八八年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	金魚と三面記事一鑑賞手引一	鑑賞	高木浩志		文楽地方公演プログラム		①昭和63年10月 ④文楽協会 ③平成1年3月文楽地方公演プログラムにも再掲
	「本朝廿四孝」武田勝頼	芸談	吉村暢子＝聞き 手	(1) 吉田玉男	文楽	第7号	①平成1年2月 ④「文楽」編集部
	「本朝廿四孝」八重垣姫			(3) 吉田簀助			
	近松半二 最後の大成者	研究	水落潔		文楽 そのエンテクロペディ		①平成1年3月 ④新曜社
	本朝廿四孝の八重垣姫	解説	池山晃		國文學 解釈と教材の研究	第34巻 9号	①平成1年7月 ④學燈社 ③7月臨時増刊号。古典文学作中人物事典
	暗闇の狐火 『本朝廿四孝』一十種香・狐火	鑑賞	渡辺保		歌舞伎という宇宙 私の古典 鑑賞		①平成3年4月 ④筑摩書房

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第一章 入門 * 桐竹紋二郎	芸談	(3) 吉田叢助		頭巾かぶって五十年		①平成3年8月 ④淡交社 ③「狐火」の足
	叢助の世界	グラフィア	青木信二＝写真				③八重垣姫
	第三章 叢助の世界 * 伝統と現代	芸談	(3) 吉田叢助				③八重垣姫の塵手水
	* 文楽に生きる女たち						③八重垣姫
	第一部 浄瑠璃史をめぐって 第六章 近松半二と菅専助	研究	古井戸秀夫		浄瑠璃の世界		①平成4年6月 ④世界思想社 ③阪口弘之＝編
435	第二編 舞踊と浄るり 浄るりの恋 * 近松半二と菅専助				歌舞伎 問いかけの文学		①平成10年7月 ④ぺりかん社
	「本朝廿四孝」雑感	鑑賞	尾崎秀樹		国立劇場文楽公演解説書	第100回	①平成4年9月 ④日本芸術文化振興会
	「廿四孝」通し、手堅い演技	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き－ 劇評と文楽考－		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③平成4年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」平成4年9月8日
	総力戦の『本朝廿四孝』	劇評	富岡泰		演劇界	第50巻 第11号	①平成4年10月 ④演劇出版社 ③平成4年9月東京国立劇場小劇場所演
	劇界この一年 文楽 近松半二劇通しとその方向	劇評	内山美樹子		演劇界	第50巻 第13号	①平成4年12月 ④演劇出版社 ③平成4年9月東京国立劇場小劇場所演（短評）
					文楽 二十世紀後期の輝き－ 劇評と文楽考－		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
435	文楽時評 『本朝廿四孝』－如何に読み、 どう演ずるか－	研究 劇評	内山美樹子		歌舞伎 研究と批評	11	①平成5年6月 ④リポレポート ③歌舞伎学会＝編。作品論と平成4年9月東京国立劇場小劇場所演評
					文楽 二十世紀後期の輝き－ 劇評と文楽考－		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽人形の仕組と表情 五 立役人形の表現	芸談	森西真弓＝構 成・文	(1) 吉田玉男	別冊太陽 日本のこころ	No.80 文楽	①平成5年1月 ④平凡社 ③「十種香」の勝頼
	六 女形人形の表現			(3) 吉田簑助			③「十種香」の八重垣姫
	文楽名作案内 本朝廿四孝	鑑賞	井上勝志				③阪口弘之＝編
	奥行きのある「野崎村」	劇評	田結荘哲治		演劇界	第51巻 第3号	①平成5年2月 ④演劇出版社 ③平成5年1月国立文楽劇場所演（短評）
	『新版歌祭文』の面白さ	劇評	宮辻政夫		上方芸能	115号	①平成5年8月 ④『上方芸能』編集部 ③平成5年1月国立文楽劇場所演
	廿四孝	鑑賞	武藤純子		カブキ101物語		①平成5年7月 ④新書館 ③渡辺保＝編
	「寺子屋」談義 * 思い出の稽古	芸談	後藤静夫	(7) 竹本住大 夫	文楽談義一語る・弾く・遣う		①平成5年8月 ④創元社 ③井野辺潔＝監修、義太夫研究会＝編著。「十種香」
	「彦六系」の芸 * 声屋は声屋		垣内幸夫	(8) 竹沢団六 (7) 鶴沢寛 治)			③竹本小春太夫（(7) 竹本土佐太夫）の「狐火」
	「人形芝居」を超えて * 首の大型化の顛末		内山美樹子	(1) 吉田玉男			③歌舞伎座で遣った狐の大きさ
	嘘を真らしく * 左に移った肝臓		茂手木潔子	(3) 吉田簑助			③「狐火」
	八重垣姫「本朝廿四孝」	芸談	(3) 吉田簑 助・山川静夫		文楽の女 吉田簑助の世界		①平成6年3月 ④淡交社 ③青木信二＝写真。平成28年8月新書版刊
	第三部 名作の鑑賞 時代物 本朝廿四孝	解説	藤田洋・森西真 弓		文楽ハンドブック		①平成6年12月 ④三省堂 ③平成15年3月改定版、平成23年2月第3版
	文楽見どころ聞きどころ 名作 集 * 本朝廿四孝	鑑賞	廓正子		文楽入門 鑑賞へのいざない		①平成7年6月 ④淡交社 ③淡交ムック。水落潔＝指導、青木信二＝写真。「十種 香・奥庭」

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	Ⅱ 人形浄瑠璃 9 人形浄瑠璃の作者 (6) 近松半二	研究	吉永孝雄		講座 日本の演劇	4近世の演劇	①平成7年8月 ④勉誠社 ③諏訪春雄・菅井幸雄＝編集
435	10 人形浄瑠璃の作品 (12) 本朝廿四孝	梗概 解説	黒石陽子				
	合作浄瑠璃の時代 * 近松半二と菅専助	研究	大橋正叔		岩波講座 日本文学史	第9巻 18世紀の文学	①平成8年12月 ④岩波書店
	手慣れた曲ぞろいで安定感	劇評	田結荘哲治		演劇界	第56巻 第2号	①平成10年2月 ④演劇出版社 ③平成10年1月国立文楽劇場所演（短評）
	品格、大きさ、みごとな玉男の 良弁	劇評	宮辻政夫		上方芸能	130号	①平成10年10月 ④『上方芸能』編集部 ③平成10年1月国立文楽劇場所演（短評）
	錦糸襲名と見取り狂言の未来— 九八年上半期の文楽—	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	22	①平成10年12月 ④歌舞伎学会 ③平成10年1月国立文楽劇場所演（一言）
	昭和文楽のテキスト 『本朝廿四孝』四段目切 謙信 館	解題 テキ スト	井野辺潔		日本の音楽と文楽		①平成10年3月 ④和泉書院 ③昭和44年10月東京国立劇場小劇場所演「十種香・狐 火」をテキスト化
	舞台の奥の情景	評論	上村以和於		演劇界	第57巻 第15号	①平成11年11月 ④演劇出版社 ③特集〈本朝廿四孝の魅力〉
	じっくりと義太夫狂言の醍醐味 不思議な芝居の矛盾を超えた芸 の魅力	対談	山田庄一・水落 潔				
435	史実からみた上杉・武田の関係	史実	小和田哲男		国立劇場歌舞伎公演解説書	第216回	①平成11年11月 ④日本芸術文化振興会
	舞台に誕生した日本の「軍 師」—軍師山本勘助は本当にい たのか—	考証	松井今朝子				
	特集・二十四孝 * 中国の『二十四孝』	参考	橋本草子				
	* 日本人と『二十四孝』		母利司朗				
カ476	歌舞伎のお宝⑦ 諏訪法性の兜		内田保廣				
	修士論文要旨 「本朝廿四孝・十種香」—八重 垣姫を巡る一視点—	研究	三浦広平		舞台芸術研究	第6号	①平成13年3月 ④日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術専攻
	文楽の名作ダイジェスト 『本朝廿四孝』	鑑賞	阿部俊夫		NHK 日本の伝統芸能		①平成13年4月 ④日本放送出版協会 ③文楽鑑賞入門Ⅷ

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考	
	三、文楽合同 * 四回目	芸談	桐竹紋壽		文楽・女方ひとすじ おつる から政岡まで		①平成13年9月	
	* 手蚕糸						④東方出版	
	五、文楽へのいざない * 文楽の女たち						③足遣いの心得	
							③八重垣姫の人形遣いの早替りの工夫	
							③八重垣姫	
540	浄瑠璃再発見 (二) 一『本朝廿四孝』の劇作法一	鑑賞	内山美樹子		国立劇場文楽公演解説書	第136回	①平成13年9月 ④日本芸術文化振興会	
435	上演演目に沿って * 十種香 その思い出と表現	芸談	高木浩志＝聞き 手	(4) 竹本越路 大夫	国立劇場上演資料集	435	①平成13年9月	
	本朝廿四孝 十種香の段						④日本芸術文化振興会	
					四代越路大夫の表現一文楽鑑 賞の手引き一		③「十種香」「下駄場」	
							①平成14年6月	
							④淡文社	
							③「十種香」のみを再録	
435	玉男芸話11	芸談	森西真弓＝聞き 手	(1) 吉田玉男	国立劇場上演資料集	435	①平成13年9月	
							④日本芸術文化振興会	
					吉田玉男文楽藝話		③勤助母に触れる	
579	本朝廿四孝						①平成19年9月	
							④日本芸術文化振興会	
							③国立劇場上演資料集増刊	
	十種香の人形美	劇評	福本和生		演劇界	第59巻 第14号	①平成13年10月 (11月号)	
							④演劇出版社	
							③平成13年9月東京国立劇場小劇場所演	
	二〇〇一年下半期の文楽	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	29	①平成14年6月	
							④歌舞伎学会	
							③平成13年9月東京国立劇場小劇場・11月国立文楽劇場所演	
	鑑賞ガイド	鑑賞	(ふ)		国立文楽劇場文楽公演解説書	第84回	①平成13年11月	
	人物関係図	参考					④日本芸術文化振興会	
	より深く楽しむために							
	「お香」の流行一戦国・江戸 期一		太田清史				③「十種香」	
	吉田玉幸にきく	芸談	広瀬依子＝聞き 手	(2) 吉田玉幸			③横蔵について	
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結莊哲治					
	二十年ぶりの「筍掘り」	劇評	田結莊哲治		演劇界	第60巻 第1号	①平成13年12月 (平成14年1月号)	
							④演劇出版社	
							③平成13年11月国立文楽劇場所演	

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「四時間」の壁一『本朝廿四孝』の通し	劇評	片山剛		上方芸能	143号	①平成14年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成13年11月国立文楽劇場所演
	『武田信玄/長尾謙信本朝廿四孝』第三について一景勝を中心とする作品解釈と、現行本文成立時期に関する研究一	研究	神津武男		歌舞伎 研究と批評	28	①平成14年1月 ④歌舞伎学会
	第四部 作品研究 第二章 『本朝廿四孝』第三ノ切「勘助住家の段」				浄瑠璃本史研究		①平成21年2月 ④八木書店
	文楽まめ知識⑦ 太夫・三味線・人形の衣裳	参考	高木浩志		国立劇場文楽公演解説書	第138回	①平成14年2月 ④日本芸術文化振興会 ③狐火の人形遣いの衣裳
	文楽まめ知識 三業（太夫三味線人形）の衣裳				文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院
	第六章 簀太郎先生おすすめの文楽 『廿四孝』の「奥庭狐火」の段	鑑賞	小野幸恵	吉田簀太郎 （(3) 桐竹勘十郎）	吉田簀太郎の文楽		①平成14年3月 ④岩崎書店 ③日本の伝統芸能はおもしろい⑤。吉田簀太郎（(3) 桐竹勘十郎）＝監修
	第六章 勘十郎先生おすすめの文楽 『本朝廿四孝』「奥庭狐火の段」		小野幸恵	(3) 桐竹勘十郎	桐竹勘十郎と文楽を観よう		①平成27年2月 ④岩崎書店 ③新版日本の伝統芸能はおもしろい。(3) 桐竹勘十郎＝監修。『吉田簀太郎の文楽』の増補改訂版
	重厚と華麗一時代物の世界一	鑑賞	森西真弓		NHK 日本の伝統芸能		①平成14年4月 ④日本放送出版協会 ③文楽鑑賞入門9
	文楽の名作 * 本朝廿四孝	鑑賞	浦田健次郎＝監修／児玉竜一＝編著		能楽 文楽 歌舞伎 日本の伝統芸能への誘い		①平成14年8月 ④教育芸術社
	これを見よ！文楽演目厳選10 本朝廿四孝 奥庭狐火の段	鑑賞	七海友信		歌舞伎・文楽の見方が面白いほどわかる本		①平成15年4月 ④中経出版

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽まめ知識⑬ 人形の衣裳	参考	高木浩志		国立劇場文楽公演解説書	第144回	①平成15年9月 ④日本芸術文化振興会 ③八重垣姫・横蔵の衣裳
	文楽まめ知識 人形の衣裳				文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院
	文楽を観に行く前に 初めて観るならこの演目がおす すめ8 *本朝廿四孝	鑑賞	松平盟子		劇場に行こう 文楽にアクセ ス		①平成15年10月 ④淡交社 ③「十種香」
	劇場必携演目ダイジェスト24 *本朝廿四孝	あら すじ					③全段
	「太陽劇団」の凄さ	随筆	赤川次郎		人形は口ほどにものを言い		①平成16年1月 ④小学館 ③『本の窓』（平成12年3・4月合併号～平成15年5月号） 連載分に加筆したもの。平成13年9月東京国立劇場小劇場 所演
					赤川次郎の文楽入門～人形は 口ほどにものを言い		①平成19年8月 ④小学館 ③小学館文庫
	第二章 名作ガイド *本朝廿四孝	解説	松平盟子・酒井 順子		豊竹咲甫大夫と文楽へ行こう		①平成16年12月 ④旬報社 ③旬報社まんぼうシリーズ。豊竹咲甫大夫（（6）竹本織 太夫）＝著、松平盟子＝協力。「十種香」
	孝子のお話	参考	法月敏彦		国立劇場歌舞伎公演解説書	第244回	①平成17年3月 ④日本芸術文化振興会
	第一章 キーワードでたどる文 楽 *足遣い	鑑賞	亀岡典子		文楽ざんまい		①平成17年6月 ④淡交社 ③八重垣姫の足
	最終章 人間の心底を描き続け る文楽の世界 *燃え上がる一途な恋						③八重垣姫
	時代物・女の巻 本朝廿四孝	鑑賞	高木秀樹＝著／ 青木信二＝写真		あらすじで読む 名作文楽50		①平成17年7月 ④世界文化社 ③ほたるの本。平成27年9月加筆再構成した新版刊
	名作文楽50 本朝廿四孝				文楽手帖		①平成26年8月 ④KADOKAWA ③角川ソフィア文庫。『あらすじで読む 名作文楽50』 を加筆修正のうえ再構成したもの

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	鑑賞ガイド	鑑賞	(Y)		国立文楽劇場文楽公演解説書	第100回	①平成17年11月 ④日本芸術文化振興会
	武田信玄/長尾謙信本朝廿四孝 人物関係図	解説					
	軍師山本勘助	史実	笹本正治				
	技芸員にきく 桐竹紋豊	芸談	広瀬依子=聞き 書き	桐竹紋豊			
	文楽・知識の泉⑨	鑑賞	高木浩志		文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院
	時代物・世話物・景事物 文楽を味わう一助になれば 本朝廿四孝						
	関西劇信 初役揃いの『三婆』	劇評	坂東垂矢子		演劇界	第64巻 第1号	①平成17年12月(平成18年1月号) ④演劇出版社 ③平成17年11月国立文楽劇場所演
	百回目の千秋楽	劇評	片山剛		上方芸能	159号	①平成18年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成17年11月国立文楽劇場所演
	〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽の昭 和から平成へー吉田文雀師に聞 くー * 文楽と歌舞伎	芸談	鎌倉恵子	吉田文雀	芸能の科学	33	①平成18年3月 ④(独)文化財研究所東京文化財研究所芸能部 ③八重垣姫の演出
	第一章 愛の絆 * 本朝廿四孝 十種香の段	鑑賞	葛西聖司		文楽のツボ		①平成18年5月 ④日本放送出版協会 ③生活人新書182
	第二章 恋の炎 * 本朝廿四孝 奥庭の段						
	* お種 * 唐織 * 越路 * 長尾景勝 * 長尾謙信 * 松寿丸	解説	金子健		歌舞伎登場人物事典		①平成18年5月 ④白水社 ③河竹登志夫=監修、古井戸秀夫=編
	* 斎藤道三 * 慈悲蔵 * 白須賀六郎 * 武田勝頼 * 濡衣 * 原小文治 * 八重垣姫		石橋健一郎				
	* 横蔵		内山美樹子				

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	二人の人間国宝 芸を語る * 吉田文雀	芸談	高木浩志	吉田文雀	内子座文楽プログラム	第10回	①平成18年8月 ④内子座文楽公演実行委員会・内子町、内子町教育委員会
	鑑賞の手引き * 本朝廿四孝	演出					
	三章 京都南座に行く	鑑賞	三浦しをん		あやつられ文楽鑑賞		①平成19年5月 ④ポプラ社
	人形界に豊松姓復活	劇評	津田類		演劇界	第66巻 第11号	①平成20年11月 ④演劇出版社 ③平成20年9月東京国立劇場小劇場所演（短評）
	舞台鑑賞 「本朝廿四孝」（十種香の段・ 奥庭狐火の段）	鑑賞	富岡泰		國文學 解釈と教材の研究	第53巻 15号	①平成20年10月 ④學燈社 ③10月臨時増刊号。特集〈文楽一人形浄瑠璃への招待〉。現行台本に語釈・演出・見所を付載
	技芸員にきく 豊松清十郎	芸談	広瀬依子＝聞き 書き	(5) 豊松清十郎	国立文楽劇場文楽公演解説書	第112回	①平成20年11月 ④日本芸術文化振興会 ③八重垣姫
	文楽・知識の泉⑳ * 襲名	鑑賞	高木浩志				③十種香・狐火に少し触れる
	清十郎の門出	劇評	亀岡典子		演劇界	第67巻 第1号	①平成21年1月 ④演劇出版社 ③平成20年11月国立文楽劇場所演
	古く、新しい、八重垣姫	劇評	片山剛・森田美芽		上方芸能	171号	①平成21年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成20年11月国立文楽劇場所演（短評）
	『本朝廿四孝』の「だったらな にも考えない」	鑑賞	橋本治		考える人	二〇〇九年 春・夏号	①平成21年5・8月 ④新潮社
浄瑠璃を読もう						①平成24年7月 ④新潮社	
	文楽歴史散歩 本朝廿四孝	史跡	田結莊哲治		文楽地方公演プログラム		①平成21年9月 ④文楽協会 ③平成22年3月文楽地方公演プログラムにも転載
	和生の老母が秀逸	劇評	津田類		演劇界	第69巻 第2号	①平成23年2月 ④演劇出版社 ③平成22年12月東京国立劇場小劇場所演
	文楽のことばの現在	研究	内山美樹子		文学	第12巻 第2号	①平成23年3月 ④岩波書店 ③特集〈人形浄瑠璃・文楽のことばへ〉。平成22年12月東京国立劇場小劇場所演、三段目の復活台本について

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	考証・明和三年『武田信玄/長尾謙信本朝廿四孝』京都興行一淨瑠璃本の包紙、絵尽など人形淨瑠璃関係の資料学の試みー	研究	神津武男		早稲田大学高等研究所紀要	第3号	①平成23年3月 ④早稲田大学高等研究所
	知識の泉38	鑑賞	高木浩志		国立文楽劇場文楽公演解説書	第129回	①平成25年1月 ④日本芸術文化振興会 ③「文楽・知識の泉⑨」を短縮・改稿、「十種香」「奥庭」について
	住大夫復帰	劇評	宮辻政夫		演劇界	第71巻 第3号	①平成25年3月 ④演劇出版社 ③平成25年1月国立文楽劇場所演
	長期計画はどこに	劇評	福本のりこ・片山剛		上方芸能	188号	①平成25年6月 ④『上方芸能』編集部 ③平成25年1月国立文楽劇場所演（短評）
	丸本離れを危惧する	劇評	河内厚郎		歌舞伎 研究と批評	52	①平成26年9月 ④歌舞伎学会 ③平成25年1月国立文楽劇場所演（一言）
	三部制を見直す時	劇評	富岡泰		演劇界	第72巻 第4号	①平成26年4月 ④演劇出版社 ③平成26年2月東京国立劇場小劇場所演（短評）
	勘十郎・玉女が解説する私が好きな演目ベスト10 本朝廿四孝 八重垣姫	解説 芸談	(3) 桐竹勘十郎		文楽へようこそ		①平成26年4月 ④小学館 ③(3) 桐竹勘十郎・吉田玉女(2) 吉田玉男) = 著
	八重垣姫	芸談 グラフィア	(3) 桐竹勘十郎／ヒロセマリコ = 撮影		なにわの華 文楽へのいざない 人形遣い桐竹勘十郎		①平成26年5月 ④淡交社 ③小佐田定雄・くまざわあかね = 構成・編集協力
	第四章 円熟の時代 * 文字大夫襲名	芸談	高遠弘美・福田逸 = 聞き手	(7) 竹本住大夫	七世竹本住大夫 私が歩んだ90年		①平成27年11月 ④講談社 ③昭和35年1月道頓堀文楽座所演の「十種香」
	技芸員にきく 鶴澤寛治	芸談	坂東亜矢子 = 聞き手	(7) 鶴沢寛治	国立文楽劇場文楽公演解説書	第145回	①平成29年1月 ④日本芸術文化振興会 ③「十種香」
	咲太夫の傑作	劇評	宮辻政夫		演劇界	第75巻 第3号	①平成29年2月(3月号) ④演劇出版社 ③平成29年1月国立文楽劇場所演
	平成二十九年上半期の文楽	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	60	①平成30年4月 ④歌舞伎学会 ③特集〈近松(上)研究編〉。平成29年1月国立文楽劇場所演

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「道三最期の段」から振り返る『本朝廿四孝』の全体像	研究	山本英司		金沢星稜大学論集	第50巻 第2号	①平成29年3月 ④金沢星稜大学学会経済部会
	雪中の筍	芸話	小佐田定雄		国立文楽劇場文楽公演解説書	第150回	①平成30年4月 ④日本芸術文化振興会 ③(5)吉田玉助が(4)吉田玉助から受けた指導
	<人物関係図> 『本朝廿四孝』	解説					③国立劇場第203回文楽公演解説書(平成30年5月)に再掲
	襲名記念インタビュー *五代目吉田玉助	芸談	坂東亜矢子=聞き手	(5)吉田玉助			
	五代目玉助襲名	劇評	宮辻政夫		演劇界	第76巻 第6号	①平成30年5月(6月号) ④演劇出版社 ③平成30年4月国立文楽劇場所演
	平成三十年上半期 関西の歌舞伎・文楽季評一椅子から転げ落ちるほど面白い「瓢箪棚の段」一	劇評	川浪春香		歌舞伎 研究と批評	62	①平成31年2月 ④歌舞伎学会 ③平成30年4月国立文楽劇場所演(短評)
	平成三十年上半期の文楽	劇評	田草川みずき				③平成30年4月国立文楽劇場・5月東京国立劇場小劇場所演
	かしらのいろいろ	資料 写真			国立劇場文楽公演解説書	第203回	①平成30年5月 ④日本芸術文化振興会 ③越名妻入江・慈悲蔵実は直江山城之助・高坂弾正・越名弾正・勘助の母・横蔵後に山本勘助のかしら
	上演作品への招待	鑑賞	児玉竜一				
	玉助襲名と二つの時代物	劇評	富岡泰		演劇界	第76巻 第8号	①平成30年7月(8月号) ④演劇出版社 ③平成30年5月東京国立劇場小劇場所演
	2章 はじめてさんへのオススメ演目 *本朝廿四孝	入門	上島カンナ=マンガ/文楽協会=協力		マンガでわかる文楽		①平成31年3月 ④誠文堂新光社 ③佳山泉=執筆協力、人形浄瑠璃文楽座=協力
	ビジネスで大事なことは今も昔も変わらない。 名作から学ぶ、ここぞの処世術 *本朝廿四孝	鑑賞			ビジネスパーソンのための文楽のすゝめ		①令和1年12月 ④実業之日本社 ③(6)竹本織太夫=監修
	十種香 場面に分けて見る	鑑賞	渡辺保		文楽ナビ		①令和2年9月 ④マガジンハウス
	半二の時代と十種香一思いを託す香	参考	濱崎加奈子		国立文楽劇場文楽公演解説書	第160回	①令和2年10月 ④日本芸術文化振興会

上演資料 集掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽再開	劇評	宮辻政夫		演劇界	第79巻 第1号	①令和2年12月（令和3年1月号） ④演劇出版社 ③令和2年10～11月国立文楽劇場所演
	三味線譜で迎る義太夫節の音楽 《本朝廿四孝 四段目切 十種香 の段》を例として（1）	研究	太田暁子		東京音楽大学研究紀要	第44集	①令和3年3月 ④東京音楽大学
	宗輔、半二、正三、五瓶一空間 設定の方法	研究	葛綿正一		沖縄国際大学日本語日本文学 研究	第26巻 第1号	①令和3年8月 ④沖縄国際大学日本語日文学会
	近松半二一奇才の浄瑠璃作者	研究 資料	原田真澄＝編		近松半二一奇才の浄瑠璃作者		①令和4年5月 ④春陽堂書店 ③早稲田大学演劇博物館2022年度春季企画展